

授業の流れが
わかる!

中学校社会科

新しい 日文教科書 の使い方



より使いやすくなったポイントを授業の流れに沿って解説します。

導入ページ

単元の学習を
見通す

本文ページ

単元を意識し、
問いに迫る

まとめ・ふり返りページ

自分の言葉でまとめ、単元を
ふり返る

日文的Webサイト
新版教科書情報

日文 🔍



心が動く、その先へ。

日本文教出版



新しい 中文の『中学社会』 授業づくりは、**ここが** ポイント!

内容のまとめり(単元)を意識した教科書の紙面

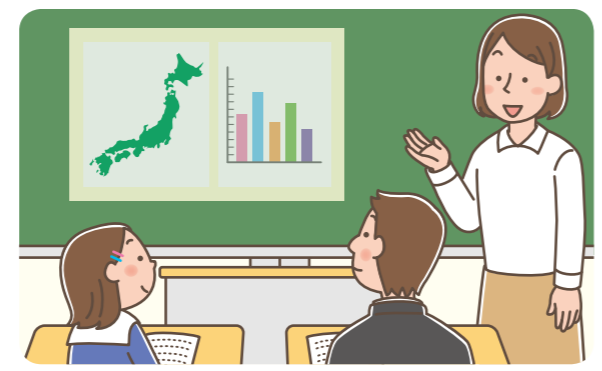
導入ページ

単元の学習を見通す

→本冊子P.6-7

教科書に単元を貫く問いとなる「**編(章)の問い**」や「**節の問い**」を構造的に設定しました。導入ページでは、**資料を読み取り、問いを導き出す活動**を提案しています。

また、立てた問いの答えを予想することや、その後の学習の見通しをもつことができるようになっています。



前時のふり返りを受けて
新たな単元へ

問いを立てる

新しい教科書には、**単元を貫く問いが設定**されています。
教科書QRコンテンツには、**ポートフォリオ**を準備しています。



公民 P.188-189

本文ページ

単元を意識し、問いに迫る

→本冊子P.8-9

単元を貫く問いを追究する本文ページでは、1時間の授業で学ぶことと、着目する視点の例を「**学習課題**」「**見方・考え方**」に示しました。

また、学習の最後に取り組む「**確認**」「**表現**」は、本文ページの学習を確実にし、「**編(章)の問い**」や「**節の問い**」に答えるための手がかりとなるように工夫しています。



問いを追究する

教科書QRコンテンツとして、**イントロダクションムービー**や**確認小テスト**も新たに加わりました。



歴史 P.196-197

まとめ・ふり返しページ

自分の言葉でまとめ、単元をふり返る

→本冊子P.10-11

まとめ・ふり返しページでは、**習得した知識を確認した後、単元を貫く問いについて考える活動**を行います。

また、**ポートフォリオ**を用いて学習をふり返ることで、学びの自己調整ができるようになっています。

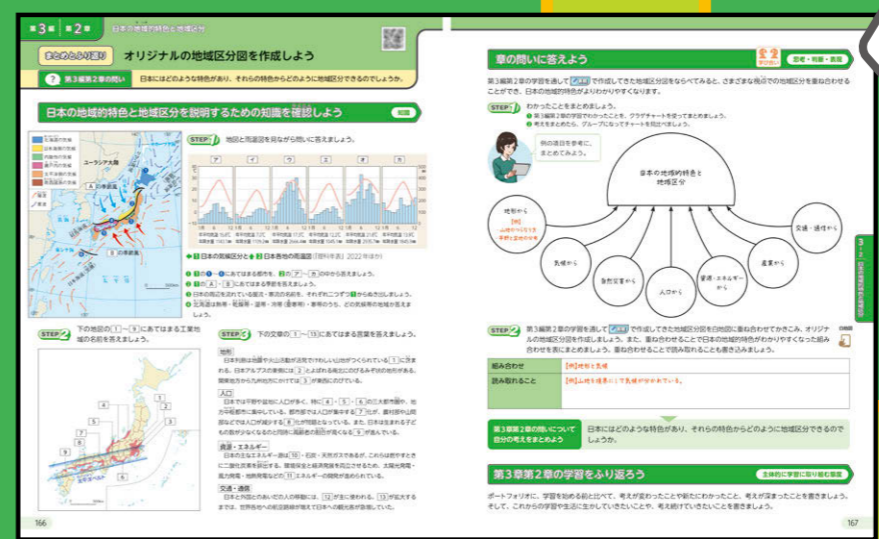


問いを解決する

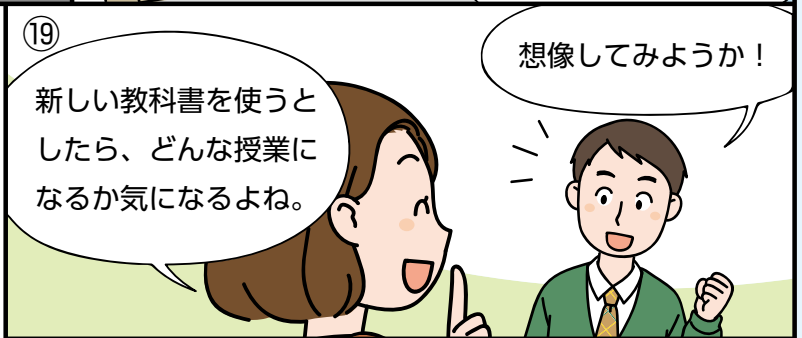
「主体的に学習に取り組む態度」の**評価**ができるようになっていきます。



ふり返りを踏まえて
次の単元へ



地理 P.166-167



1 これから新しい単元の学習に入ります。教科書の①まんがや②「どんな学習をするのかな?」を確認しましょう。

この単元では、こんなことを学ぶのか!

2 それでは、③「トライ」コーナーに取り組んでみましょう。

この部分は、こういうことかな?

ここは、まだよくわからないね。

3 話し合ったことをもとに、④この単元で追究する課題を確認しましょう。

目標が明確だね!

「編(章)の問い」に答えることを目指して、学習を進めていけばいいの!

4 授業の最後に、「編(章)の問い」について⑤予想を立ててみましょう。

ポートフォリオ

こんなことが言えるかもしれないな。ここがわかれば、答えの根拠にできそう!

第4編 第1章 私たちと国際社会 現代の国際社会と課題

学習のはじめに チョコレート王国

小学校で学習した内容 持続可能な社会 異文化理解 国際協力 国際連合 国旗・国家 地球環境問題

1

① A国のチョコレートは安くておいしいので世界中で評判です。

② しかし... どんどんチョコレートを作れー!

③ 文化習得がすすんだね!

④ 子どもの安くて働かされて大もうけだ。

⑤ 子どもの安くて働かせるのはやめろ!

⑥ この国では子どもが働くのは普通のことだ。

⑦ 他国のことに口出しするな、勝手だろう!

⑧ 人権の侵害が起きているけど他の国のことだから手が出せない...

⑨ 私の国も安い商品を買って、利益を得ているし...

⑩ 森林を伐採して工場をさらに増やしてやる。

⑪ もう私たちの国の軍隊が乗りこんで解決するしかない!

⑫ どうしたらいいのだろうか...

⑬ そんなの許されるのかな...

2

どんな学習をするのかな?

世界にはおよそ200の国があり、それぞれの国の政府が治めています。こうした多くの国からなる国際社会では、漫画のように人権を侵害する国や、他国を侵略する国が現れても、国内の社会とはちがって法を執行する中央の政府はありません。つまり、国家間で協力して問題を解決する必要があります。日本は憲法で戦争放棄を定めており、平和的な方法で問題の解決に貢献していく必要があります。日本は、国際社会のなかでどのような役割を果たしていくべきかを考えましょう。

●この章で主に働かせる見方・考え方 対立と合意 協定と公正 持続可能性 国際協働 など

3

気づいたことを出し合おう

Q1. A国の子どもは、どのような権利が侵害されているかを考えましょう。

Q2. 他国から受けた注意を、A国は受け入れなくてもよいでしょうか。そう考えた理由は何でしょうか。

B, C, D国が、A国の子どもの人権を守るためにA国へ軍隊を送りこむことには、問題がありそうな気がするよ。

国と国の対立はどう解決したらよいのだろうか。

SDGsは、この問題とどのように関係しているのかな。

4

第4編第1章の問いを立てよう

チョコレート王国の話は、この章の学習とどのように関係するでしょうか。出した意見から疑問を解決するための課題をまとめましょう。

5

学習の見通しをもとう

第4編第1章の問いに対する疑問や答えの予想を、ポートフォリオに書きこみましょう。

まとめ(P.221)では、第4編第1章の問いに答えるための活動を行います。この問いを意識しながら、学習を深めていきましょう。

188 公民 P.188-189 学習のはじめに 189

NEW! 2

サンプルはこちら↓

単元を通して学習を記録するポートフォリオ

導入ページとまとめ・ふり振り返りページから教科書QRコンテンツ「ポートフォリオ」をダウンロードすることができます。生徒が学習の見通しをもち、学習後に自身の考えがどのように変わったかを振り返ること、教師が授業改善につなげることを目的とした、学習成果や学習履歴を記録するコンテンツです。

ポートフォリオ (第4編第1章)

第4編 私たちと国際社会 第1章 現代の国際社会と課題

●学習の見通しを立てよう 章の問いを中心に、国際社会と人権の課題について学習していきましょう。

●第1部～第2部の問いについて、学習したことをもとに考えをまとめましょう。

●第1部の問い 国際社会において、国家がたがいに尊重し、協力し合うために大切なものは何でしょうか。

●第2部の問い 国際社会の課題の解決のために、私たちはどのような取り組みができるでしょうか。

●章の問いに答えよう 第1部～第2部の問いについて考えたことをもとに、章の問いをまとめましょう。

NEW! 1

単元を貫く問いの明示

編(章)や節というまとまりで単元を貫く問いを教科書に明示しました。まんが・資料の読み取りや話し合いを通して、編(章)や節で追究していく問いを立て、内容のまとまりで学習を進められるようにしました。

Word・Googleドキュメント・PDFの3種類が用意されているので、実態にあわせて運用できます!

1 節全体を通して、「**1節の問い**」を考えていきます。まずは、**2イントロダクションムービー**でこの節で学習することを確認しましょう。

「節の問い」に答えるためには、こんな視点が必要かな。

この節の全体像が見えたぞ！

2 今日の**3「学習課題」**を確認します。**4「見方・考え方」**コーナーもみてみましょう。

今日の授業はこの課題を中心に考えるのか！

考えていく時は、この視点や方法に着目するんだね！

3 「学習課題」の解決を目指して本文や資料をみていきましょう。

この資料には**5「学び合い」**マークがついているね。

近くの人と話し合ってもかまいません。

話し合ってみようよ！

4 今日学んだことを踏まえて**6「確認」「表現」**について考えたことをポートフォリオに書きこみます。

まずは、教科書の内容を確認して…

「表現」は自分の言葉で書いてみるぞ！

家に帰ったら、**7確認小テスト**で復習しましょう。

第5節 日清・日露の戦争と東アジア

1 20世紀初めの世界

1 列強の動向とアジア 一条約改正を成功させよー

2 学習課題 なぜ、日本はこの時期に条約改正を実現することができたのでしょうか。

3 見方・考え方 日本が条約改正に成功した時期と、東アジアをめぐる列強の動きに注目しましょう。

4 見方・考え方 日本が条約改正に成功した時期と、東アジアをめぐる列強の動きに注目しましょう。

5 鹿鳴館での舞踏会 当時のようすの風刺画(ピゴ画) 資料活用 どのようなことを批判しているのか。

6 朝鮮をめぐる東アジア情勢 日朝修好条規を結んだ朝鮮は、1880年代に入ると、日本をモデルに開化政策へと転換しました。しかし、国内にはこれに反対する勢力も強く、さらには清が政治に干渉したこともあって、朝鮮の政情は不安定で、この間日本は、影響力を強めつつあった清に対抗するため、軍備の増進を進めていきました。さらに、ロシアの極東進出に対する不安に導かれていきました。

7 条約改正の実現 日本は、近代国家として列強とも対等な地位を得るため、幕末に列強と結んだ不平等条約の改正に積極的に取り組んでいきました。1878(明治11)年、アメリカが最初に条約改正に応じましたが、日本が近代国家としてのかたちを整えていないことを理由にイギリスなどが反対したため、実現しませんでした。1880年代には、東京に鹿鳴館を建てて、外国人を招いた舞踏会を開くなどの欧化政策を進めました。欧米をモデルと

8 歴史 P.198 脚注

NEW! 3

学習にすんなり入れる！**イントロダクションムービー**

各節の冒頭には、教科書QRコンテンツ「イントロダクションムービー」を用意しています。生徒に、これから始める学習内容に興味・関心をもたせ、意欲や主体性を高める導入動画です。節の学習開始時に視聴することで、これから始まる学習の内容を概観することができます。また、前の節で学習したことを確認したり、設定された「節の問い」の解決にむけた見通しをもったりすることにも役立ちます。

サンプルはこちら↓

1 条約改正、日清・日露戦争は、日本にどのような影響をあたえたのでしょうか。

日清戦争の風刺画 日露戦争の風刺画

戦争が国の内外にどのような影響をあたえたのかを

歴史 P.196-197 本文ページ

「学習課題」に対応した「確認」「表現」を手がかりに「節の問い」を解決する構成になっています！

本文ページでも節の問いを確認

導入ページで示された各「節の問い」は、節の最初の本文ページでは節タイトルの下に、それ以降の本文ページでは左ページ脚注部分に示されています。1時間毎の授業のなかでも、常に「節の問い」を意識して学習ができるようにしました。

第5節の問い 条約改正、日清・日露戦争は、日本にどのような影響をあたえたのでしょうか。

8

NEW! 4

楽しく知識を確認！ 確認小テスト

教科書QRコンテンツ「確認小テスト」は、見開きの太字語句に関連する教科書準拠の4択問題です。毎見開きに用意しており、前時のおさらいとしても活用することができます。問題解答後は、選択した答えと正答の一覧や正答数を確認することができ、個別最適な学びの実現に役立ちます。

サンプルはこちら↓

9

問題 日本政府は条約改正(1)を建て、(2)を建て、(3)を建てました。

正解!

裁判官に外国人を採用することを行われました。

① 鹿鳴館 ② 種痘政策 ③ 鹿鳴館 ④ 種痘政策

次へ

1 今日、これまで学んできた単元のまとめをします。まずは、**①「編(章)の問い」**を確認しましょう。

今日は、「編(章)の問い」に答える活動をするのか!

2 左ページの課題に取り組んでみましょう。

②穴埋めも多いから考えやすい!

これまでのおさらいだから、教科書を見返してみようかな。

3 これまでの学習を踏まえると「編(章)の問い」についてどんなことがいえるでしょうか。

話し合いも充実!

③思考ツールがあると、考えを整理しやすいね!

4 最後に学習のふり返りをします。

この単元を通して考えたことやこれからの学習に生かしていきたいことを**④ポートフォリオ**に書いてみましょう。

これを使って評価するぞ!

これまでのポートフォリオを見返してみよう。

第3編 第2章 日本の地域的特色と地域区分

まとめとふり返り オリジナルの地域区分図を作成しよう

1 第3編第2章の問い 日本にはどのような特色があり、それらの特色からどのように地域区分できるのでしょうか。

日本の地域的特色と地域区分を説明するための知識を確認しよう

2 地図と気温図を見ながら問いに答えよう。

STEP1 下の地図の①～⑨にあてはまる工業地域の名前を答えよう。

STEP2 下の文章の①～⑬にあてはまる言葉を答えよう。

STEP3 地形 日本列島は地殻や火山活動が活発でけわしい山地がつくられている①に含まれる。日本アルプスの東側には②とよばれる南北にのびるみぞ状の地形がある。関東地方から九州地方にかけては③が東西にのびている。

人口 日本では平野や盆地に人口が多く、特に④・⑤・⑥の三大都市圏や、地方中核都市に集中している。都市部では人口が集中する⑦化が、農村部や山間部などでは人口が減少する⑧化が問題となっている。また、日本は生まれる子どもの数が少なくなると同時に高齢者の割合が高くなる⑨が進んでいる。

資源・エネルギー 日本は主なエネルギー源は⑩・石炭・天然ガスであるが、これらは燃やすときに二酸化炭素を排出する。環境保全と経済発展を両立させるため、太陽光発電・風力発電・地熱発電などの⑪エネルギーの開発が進められている。

交通・通信 日本と外国とのあいだの人の移動には、⑫が主に使われる。⑬が拡大するまでは、世界各地への航空路線が増えて日本への観光客が急増していた。

NEW! 5

内容のまとまりに沿った授業と評価の設計ができる紙面構造

単元のまとめの活動を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」それぞれの評価の観点に沿って整理しました。どの評価の観点にリンクしているのかが一目でわかるよう、それぞれの活動のまとまりを示すタイトルの横に観点を示しています。

章の問いに答えよう

第3編第2章の学習を通して「問い」で作成してきた地域区分図をならべると、さまざまな視点での地域区分を重ね合わせることができ、日本の地域的特色がよりわかりやすくなります。

3 わかったことをまとめよう。

例の項目を参考に、まとめてみよう。

日本の地域的特色と地域区分

地形から
【例】山地のつらなり方・平野と盆地の分布

気候から

自然災害から

人口から

資源・エネルギーから

産業から

交通・通信から

STEP2 第3編第2章の学習を通して「問い」で作成してきた地域区分図を白地図に重ね合わせてかきこみ、オリジナルの地域区分図を作成しよう。また、重ね合わせることで日本の地域的特色がわかりやすくなった組み合わせを表にまとめよう。重ね合わせることで読み取れることも書き込みしよう。

組み合わせ 【例】地形と気候

読み取れること 【例】山地を境界にして気候が分かれている。

第3章第2章の問いについて 日本にはどのような特色があり、それらの特色からどのように地域区分できるのでしょうか。

4 第3章第2章の学習をふり返ろう

主体的に学習に取り組む態度

ポートフォリオに、学習を始める前と比べて、考えが変わったことや新たにわかったこと、考えが深まったことを書き込みよう。そして、これからの学習や生活に生かしていきたいことや、考え続けていきたいことを書き込みよう。

思考ツールを活用したまとめ活動を提案

まとめの活動では、3分野とも思考ツールを用いた活動を提案しています。また、問いに対する段階的な活動を設け、まとめをステップで行うことができるようにしました。



単元を通じた学習のふり返り活動の提案

各編(章)のまとめ・ふり返りページの最後には、**単元をふり返る活動を**設定しました。「編(章)の問い」や「節の問い」を解決していくなかで、単元の学習における考えの変容を生徒自身がふり返ることができる構成で、「主体的に学習に取り組む態度」の評価にも対応しています。

ふり返りは、教科書QRコンテンツ「ポートフォリオ」に記入できるようになっており、これまでの学習で書きためてきた内容を確認しながら、**自らの学びを調整し、次時以降の学習の見通しをもつ**ことに役立ちます。

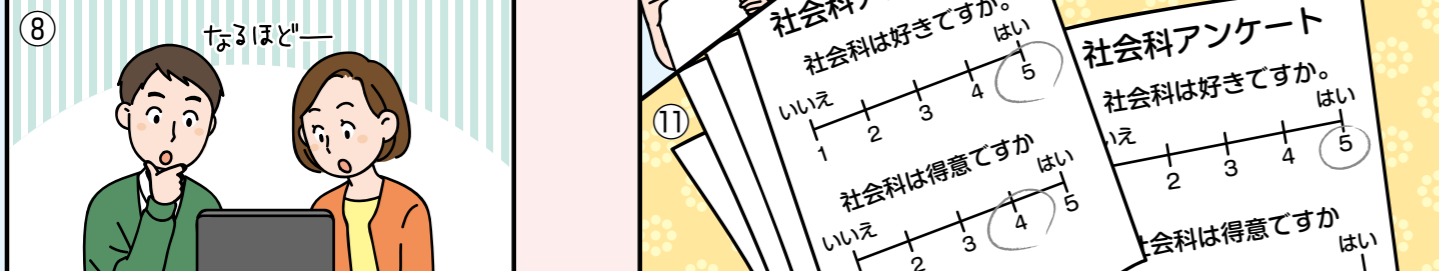
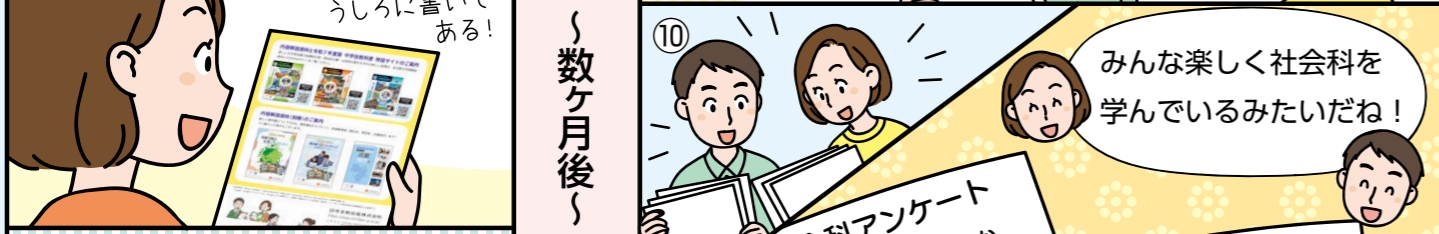
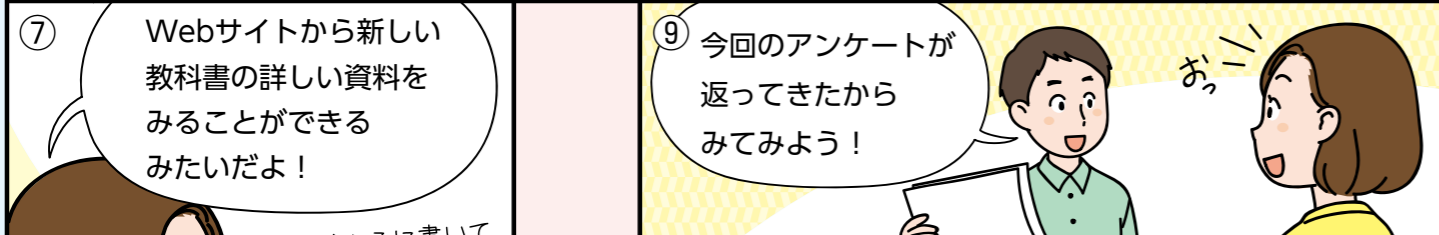
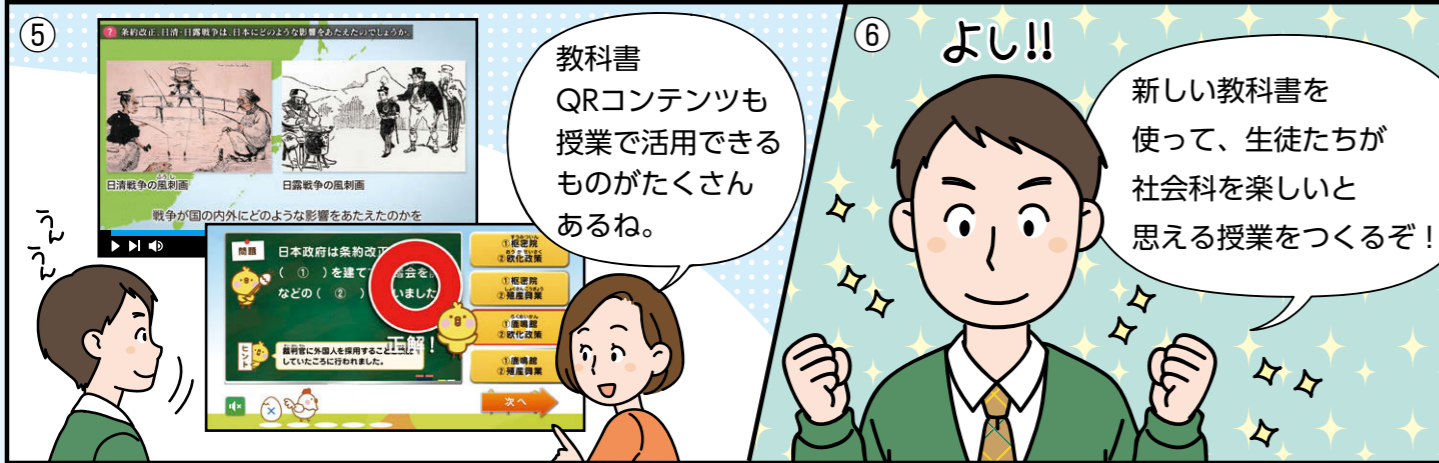
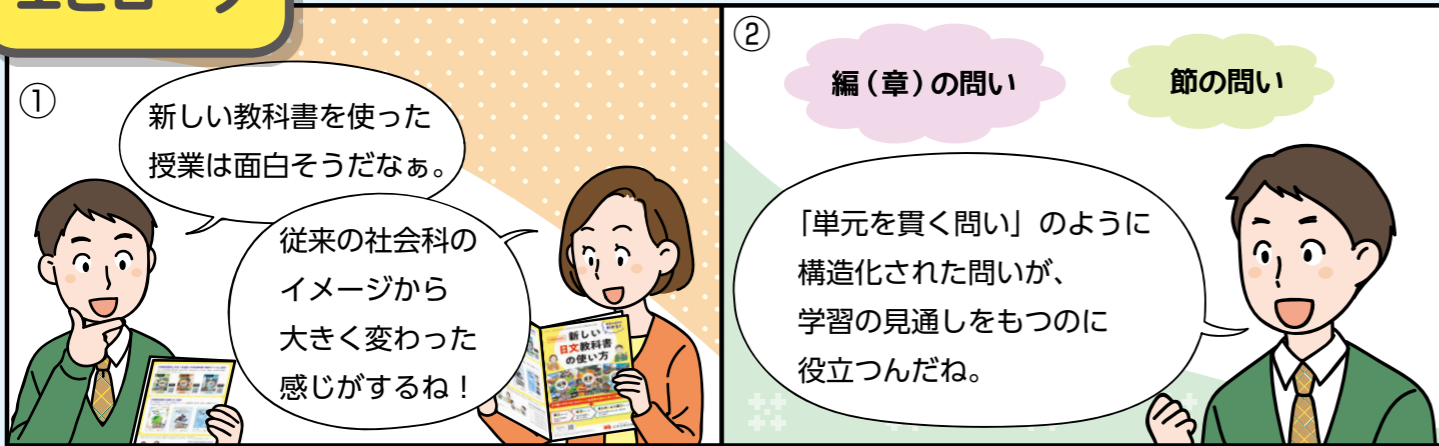


ポートフォリオ

第3編 第2章の学習をふり返りしよう

学習を始める前と比べて、新たにわかったことや考えが深まったことをふり返りしよう。

これからの学習の進め方について考えていることを記入しよう。



日本文教出版の志 - Purpose

心が動く、その先へ。

これが好き。なんでだろう? もっと、知りたい。
心が動く、瞬間。それは、「学び」のはじまり。

感じ、考え、想像し、表してみる。
そこから生まれる、一つひとつが、あなただけのもの。

それを贈り合ったら、うれしくなる。
心が満ちて、次の「やってみたい」が湧いてくる。
ほかの誰かと混ざり合ったら、ちがう景色が見えてくる。

そんな学びが、
あなたの、みんなの世界を耕していく。

私たちは、学びのはじまりを大切にし、
その先に広がる一人ひとりの未来をともに育みたい。

心が動く、そのそばで。

日本文教出版は創業より、子どもの中に生まれる学びを大切に
した教科書・教材の発行に挑戦し続けてきました。
どんなに時代や社会が変わっても、大切にしたいこと。
その想いを、志(Purpose)に込めています。
私たちはこれからも、一人ひとりの心が動く瞬間に寄り添いながら、
その先に広がる未来をともに育てていきます。



内容解説資料と令和7年度版 中学校教科書 特設サイトのご案内

新しい日文教科書の地理的分野・歴史的分野・公民的分野それぞれの詳しい説明は、各分野の内容解説資料と日文Webサイトをご覧ください。



地理的分野は
こちら↓



歴史的分野は
こちら↓



公民的分野は
こちら↓



内容解説資料(別冊)のご案内

新しい教科書についてSDGs、教科書QRコンテンツ、地域事例地(東日本、西日本、近畿地方)をテーマに紹介した冊子もございます。



※本文中の「Word」の文言は、「Microsoft Word」を指します。Microsoft、Wordは、Microsoft グループ企業の商標です。

Google、Google ドキュメントは、Google LLC の商標です。本資料に掲載されている会社名、製品名、ソフト名、ロゴ等は各社の登録商標または商標です。



本書の無断転載・複製を禁じます。

CD22361

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261 FAX:06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611 FAX:03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院3-11-14
TEL:092-531-7696 FAX:092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵1-13-18-7F-B
TEL:052-979-7260 FAX:052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似9-12-1-1
TEL:011-764-1201 FAX:011-764-0690